

コミュニケーション学部報（2022年度）

1. 専任教員

教授	池 宮 正 才
	大 岩 直 人
	北 村 智 (教務主任)
	駒 橋 恵 子
	佐々木 裕 一
	柴 内 康 文
	田 村 和 人
	中 村 忠 司
	中 村 嗣 郎
	長谷川 倫 子
	町 村 敬 志
	光 岡 寿 郎
	南 隆 太
	本 橋 哲 也
准教授	山 下 玲 子
	山 田 晴 通 (学部長)
	大 榎 淳
	大 橋 香 奈
	大 尾 侑 子
	北 山 聡
	小 林 誠
小 山 健 太	
林 剛 大	
松 永 智 子	
ピーター ロス	

2. 客員教授

安 齋 利 洋
板 谷 和 代
稲 垣 太 郎

3. 特任講師

稲 垣 秀 人
ヴァン・ロメル ピーテル
フラナガン ブルース

4. 特命講師

高 見 由満子
田 村 寿 浩
堀 口 剛

5. 非常勤講師

エバノフ 恵智子
大 谷 安 宏
志 岐 裕 子
鈴 木 麻利子
高 野 敦 伸
チェインバース ガルシア
藤 井 達 也
水 野 裕 子
山 岸 慎 司
吉 田 達

6. 学生が選ぶベストティーチャー賞表彰

・受賞者
小山健太

【参考】東京経済大学コミュニケーション学部
「学生が選ぶベストティーチャー賞」実施要項
2015年4月1日 制定

1. 目的

東京経済大学コミュニケーション学部は、以下の目的をはたすため、「東京経済大学コミュニケーション学部ベストティーチャー賞」を設ける。

(1) 教育実践において学生から高い評価を得た学部教員を「ベストティーチャー」として表彰する。

(2) 「ベストティーチャー」の高く評価された点や授業ノウハウを教員間で共有し、教育水準の向上を図る。

2. 賞の英文名称

本賞の英文名称は、Best teacher awarded by students とし、「BETAS」を通称とする。

3. 賞の授与

本賞は、学生アンケートの回答をもとに、以下の点について評価の高い教員を年に1回選出、表彰するものである。

(1) 授業において、卓越した指導力で教育効果の高い授業を実践した者。

(2) 教育方法の工夫又は改善に取り組み、顕著な教育成果をあげた者。

(3) その他、ベストティーチャー賞にふさわしいと認められる者。

受賞対象者はコミュニケーション学部教員(コミュニケーション学部生が履修する授業担当者)とし、非常勤教員を含む。

受賞者は原則、1名とする。

4. 選考手続き

(1) 学生アンケートの実施は、ベストティーチャー選考委員会が行う。

(2) 実施手続きは上記選考委員会が別途定める。

(3) アンケート結果をもとに上記選考委員会が受賞者を決定する。

5. 選考委員会の構成

(1) 教務主任

(2) 学部専任教員(若干名)

(3) その他、学部長が指名する者

委員長は委員の互選とする。任期は1年とする。

6. 表彰

受賞者には表彰状を授与する。

7. 選考結果

大学のウェブサイトを受賞教員名、授賞理由を公表する。

7. 卒業制作・卒業論文表彰

・最優秀賞(1点)

中條友貴「現代を生きる大学生の働き方の選択」〈制作〉

・優秀賞(13点)

富田亜裕「タレント広告におけるタレントおよび購買意欲との関係性」〈論文〉

本橋奈々「多様性のある街はなぜ人を引き付けるのか—メルボルンとバンクーバーの事例を中心に—」〈論文〉

福田あみ「人と作品の特徴から考える「ネタバレ」への接触行動」〈論文〉

黒澤早南「アニメ聖地巡礼における旅行者の長期的な地域愛着と関係性の変化」〈論文〉

川上麻結「孤立・孤独を超えて—コロナ禍における子育て世代の分断、政策、つながり—」〈論文〉

丹治茉優「運動部におけるインクルーシブ・リーダーシップと部員の貢献行動」〈論文〉

森千夏「広報ツールとしての公式YouTubeアカウントにおける企業ファンの獲得方法」〈論文〉

中尾莉奈「剃りたい身体(からだ)—多様性を謳い逸脱を恐れるZ世代の脱毛事情—」〈論文〉

折井亜衣「“昭和”に関心を持つZ世代の分析—なつかしさはなぜ若者に好まれるのか—」〈論文〉

高鶴覚「アボリジニの人々における身体技法と倫理—アボリジニ画を事例として—」〈論文〉

三木和磨「ルージュモンとフロムから学ぶエロスとアガペの相剋にある愛~真実の愛のカタチを探って~」〈論文〉

多田千波「Min Fika: 旅とお菓子の物語り」〈制作〉

白石匠「ヒトの認識の変化がもたらすコミュニケーションのダイナミズム シン・ボイドモデル＝「エゴイドモデル」の提案～僕が変わる。僕の観るものが変わる。僕を観るものが変わる。～」〈制作〉

8. 東京経済大学コミュニケーション学部・大学院コミュニケーション学研究科調査・実験等研究倫理小委員会報告

承認番号	申請者	研究課題名
2022-01	山下玲子	日本人のメディア利用と国民意識・コスモポリタニズム意識6：国際情勢と政治意識との関連
2022-02	北村 智	グレイ・デジタル・デバイスに関する実証的研究(1)
2022-03	山下玲子	日本人のメディア利用と国民意識・コスモポリタニズム意識5：W杯観戦を中心に
2022-04	堀口 剛	1970～1980年代における人文書と文化生産者としての編集者に関わるインタビュー調査